

殉難前草

完

911.157

Z53z

(110)

086103-001-3

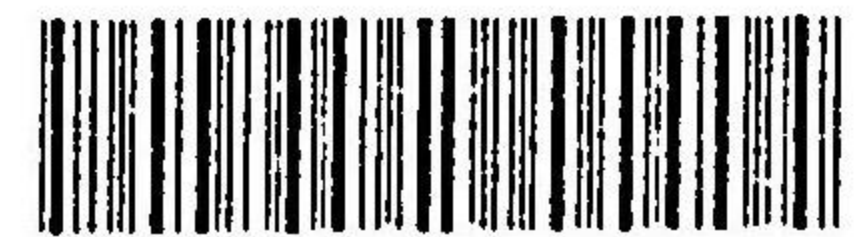
911.157-Z53zt

殉難草

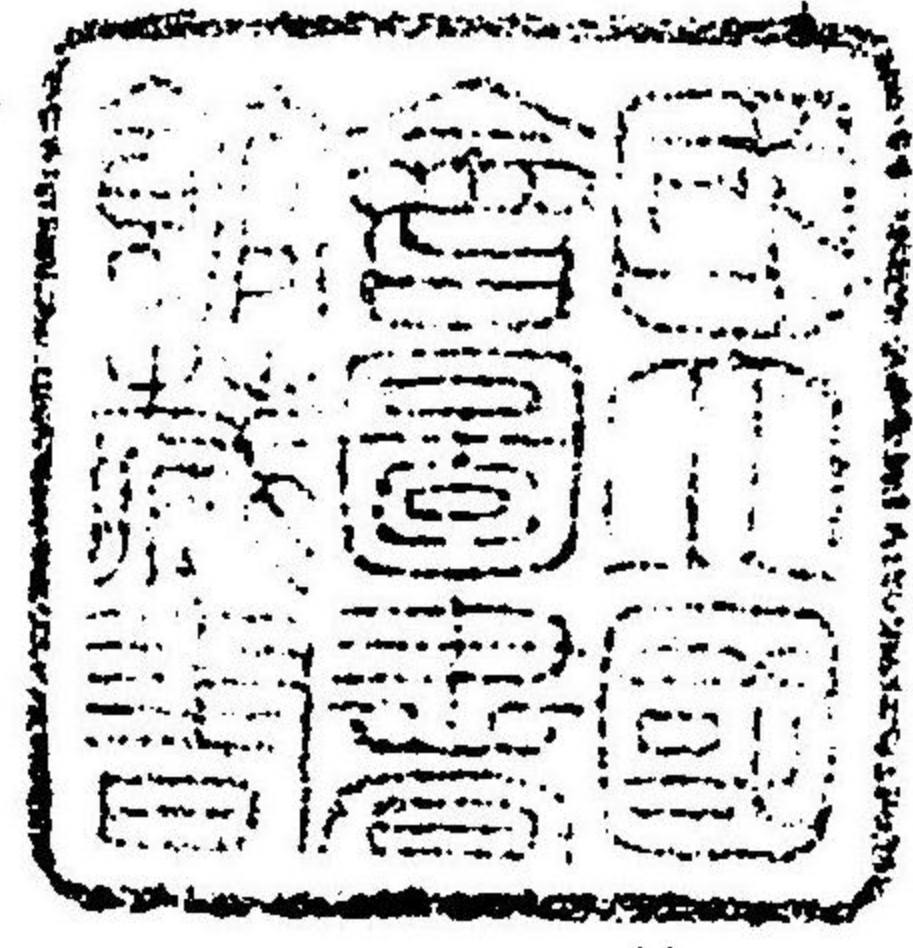
城兼文(青雲閣) / 編

M2

DBD-0797



911.157
Z537
七



v112451

殉難前草序

鳥江文庫

神列開辟之後君子不為之久而也
如之內其外患一時起之君子以秋當之人心紛々
とて其乳し田政又公平正大之純經を以て
易簡明白之大道を以て統攝險怪之曲途を
達之んて其愛之臨之各節を勵し曲直を辨し忠
諫之路を發せり而て秋除毒函を却り皇太后を
唱義尽忠國事不殉之君子其能有志之輩

三十一

冤枉羅禍之後... 許... 臨變不... 害
 為義不求生... 嘆息痛恨極... 然亦其
 平常... 賦... 月... 又... 患難...
 其詩藻... 殉難前草... 題...
 捧... 神別正氣之所固有...
 人... 月... 人事... 廢... 而已

戊辰初夏
 青雲閣兼文識

殉難前草

目錄

吉田矩方
 梅田定明
 蓮田某
 信田某
 僧忍向
 同信海
 鵜飼邦廣

稱富治即号松蔭又三十一回猛士夏列人
 安政六年未十月二十七日於江戶刑死
 稱源治即号雲濱若州薩京師住
 安政五年戊午年冬十月無閑中病死
 稱藤藏水戸宰武田伊賀守臣丁巳冬黑江役刺
 同五年正月五日於江戶獄中 元年三十六
 稱仁即水戸藩通田并堀江克之助同所業
 同年五月十七日前同斷年三十六
 洛東清水寺成就院住侶
 同年同月十五日夜薩滿没
 忍向上人
 同六年未四月廿七日於東武關中病死
 稱吉右門水藩京師苗主居
 同年八月廿七日於江戶刑死

安嶋 某

稱帶刀同藩
同上

茅根 泰

稱伊与助
同上

橋本 某

稱左内越前人

日下部信政

同年十月七日同所ニ於テ刑死年三六
稱伊三治 薩人
安政五年十二月七日於江戸獄中死

頼 醇

稱三樹三郎藝洲人京師住
同六年未八月廿七日於江戸刑死年三十四
稱竹之助水戸藩櫻田徒

佐野光明

石延元由年三月三日重創死
稱次左門薩藩前徒

有村兼清

同上重創屠賊

齋藤一德

稱監物水戸人前徒
同年同月六日於肥後師重創死

高橋愛諸

稱多一即号子抽水藩
同年同月廿一日撰加天王寺ニテ自殺

源齋 卿

從三位中納言贈從二位大納言
同年八月廿六日薨去御年六十二

兒嶋草臣

稱強助守都宮藩
久元辛酉年於江戸獄中死

金子教孝

稱孫次郎水藩
同年七月廿三日於江戸刑死

杉山 某

稱弥一即櫻田徒
同上

森 某

稱五六郎
同上

蓮田正實

稱市五郎
同上辛酉年

黒澤 某

稱忠三郎
同上

堀 利賢

稱織部正爲外國奉行
同年十月 日諫死

三嶋通植

稱三郎
同二戌年正月十五日江戸坂下ニ於テ關死

豊原親忠

稱邦之助
同上辛酉年

相見則光

稱文之助
同上辛酉年

大橋正順

稱順藏守都宮藩

同辛卯月 日 齒因中病死年四十六

有馬 某

稱新七薩藩

同年同日三日伏見歌寺田屋三於之圖死

森山 某

稱新五左門

西山 某

稱直五郎

松本 街

稱謙三郎号奎堂三州人大和義奉後

吉村重卿

同三亥年九月廿七日自殺

安積武貞

稱寅太郎土州人前同後

荒卷真刀

同辛卯月同日戰死年二十五

澁谷寬行

稱五郎江戶產前同後

岡見恒成

元治九子年二月十八日刑死

尾崎孝基

稱年三郎筑後入留果人

吉田良秀

同上

保母景光

稱伊予作常列下館藩

水郡長雄

同上

石川貞元

稱善之助河原人

乾 從龍

同上

多田 某

稱彌太郎但馬出石人銀山二奉後

美玉安譽

又之三亥年十月 日死

松田範義

稱三平薩州人

末島正久

同上 同死

稱重助肥後人

元治九子年六月六日三條後尾屋三才圖死

稱又兵衛妻者森喜太郎長州人

同年七月十九日公御門前二才戰死

入江弘毅

稱九一
同上鷹司殿三子屠肢

寺島昌昭

稱忠三郎
同上

中村無可

稱恒治郎又号野口逸六筑前入
同上同所裏御門三子戰死

真木保臣

筑後之苗米水天宮神主号和泉守
同年同月廿一日於天王山屠肢

廣田執中

稱誠一即野洲守津宮藩
同上

松浦寬敏

稱八郎久苗米人
同上

長尾景雄

稱郁三郎京師市人足利本首德
同年同月同日刑死

河村秀就

敘能登守三茶西殿家臣
同上

岡部某

稱忠藏水藩老臣
同年八月幽囚中病死

毛利某

稱登人長州人
同年十月自殺

渡辺 暢

稱内藏太
同上

竹内勝夢

稱在兵衛
同上

佐久間義瀧

稱龙兵衛
同上

猶崎清義

稱弥八郎
同上

大和直利

稱國之助
同上

実戸真徴

稱龙馬助初三郎兵衛
同上

前田利濟

稱孫左王門
同上

小室正徳

稱治作水藩筑波徒
同年同月三日刑死

小川 某

稱幸吉号龜加洲藩
同年十二月廿三日屠肢

八木橋 某

稱誠之進実名前川隼人水藩武田徒
同二五年二月四日越前救賀三於刑死享年三十八

藩武田徒

沼田 某

称虎藏 同上同月十五日死

伊藤 重房

称栄太郎 同上

加藤 徳成

称司書初又左工門院前 老臣 同年十月廿九日屠腹年六十六

江上 武要

称栄之進同藩 同年同月廿二日刑死年三十二

望 東 尼

筑前藩野村助作徳五十月遠島守京春脱島 慶應三卯年七月長洲於之病死年六十二

吉見 某

称善代八郎水戸藩 慶應元子年十月廿五日屠腹

依田 某

称雄太郎同幕府旗下 同三卯年八月十五日自殺

鈴木 某

称豊太郎同上 同年同月十七日於牢内死

細谷 某

称忠房水戸人 坂下一件三島三郎同徒

清川 正明

称八郎姓變知 文久三卯年四月十三日於江戸横死

殉難前草

青雲閣兼文稿

吉田寅治即矩方

山河襟帶自然城 形勝依然旧神京
 今朝盍嗽抃鳳闕 野人悲泣不能仁
 上林黃落秋寂寞 空有山河無變更
 聞說今上聖明德 敬天憐民護至誠
 鷄鳴乃起親齋戒 祈掃妖氣致太平
 安得天詔救六師 坐使皇威被八紘
 從來英皇不世出 悠悠失機令公卿

人生如萍無定在 何日重捧天日明

步平象山先生送別韻却呈二首

東方有後傑志尚素不群常慕非常功
又愛非常人吾誤辱知愛不知其所因
一別山河邈情懷訴九旻踽々涼々者
孤立有誰憐絕海千万國何以得新聞
國家方多事吾生非不辰涓埃有益國
敢望身後賓一朝被放去自如禍福因
展翼飛凌雲蒼々高秋旻下噉一塊土
無處不比隣回顧復一鳴欲問旧巢閔

別時叮嚀教歸期及丙辰此意吾自銘
敢後鴻雁賓

新年短古

春日載遲々黃鳥正啣々塵埃滿城市
未容汗山齊々中高臥士烟露自沈埋

○ 烏兔丸交躍容易歲月類讀書非木廣
廿九心尚狹今朝忽發悟怡然笑顏開

○ 事雖半古人切則倍古人不唯七雄際

今朝死別兼生別 唯有皇天后土知

述懷

下此平乃其あけかたはまふま
思ひはかり難の事しるはうけ
其の代をおかふらば一すらふ
我身ありともおかしきなりと

蓮田藤藏

おきし乃あはれとあはれとあはれと
系はしるはうけ

信田仁十郎

大君の身をけりしとけりしと
たのびしうけ

成就院忍向

辞世

くもりたふさくは月のさゆり
老乃たふさく今世は
大君のたふさく何れか
さゆり乃たふさく
ふのたふさく
たふさくのたふさく

辭世

安嶋帶刀

たふさふさく嵐の風はをりし
 何たふさふさくおとく乃あつし
 あり終る事ありあつし
 あり終る事ありあつし

茅根伊予助 泰

贈吉田義卿

橋本 允内

曾聽英籌慰鄙情 要君久要訂同盟

碧翁狡弄何限恨 不使春帆飄大平
 磊落斬昂意氣豪 聞說夫君瞻生毛
 想着痛飲京城夕 握腕頻頌日本刀

獄中作

苦冤難洗恨難禁 俯則悲痛仰則吟
 昨夜城中霜始墮 誰識松柏後凋心

○ 歌枕愁人愁夜永 陰風裂首掛三更
 旻天憶應憐幽寂 一点星華照牖明

二十六年夢裡過 顧懷平昔感滋多
天洋大節胸心折 土室猶吟正氣歌

日下部伊三治信政

星斗闌干月滿天 書窓深坐不就眠

欲知世運隆興兆 神武東征戊午年

さきしんのうけりおとふおとまりあう

照りてのうけりおとふおとまりあう

ゆかりさやかしき井のゑもさかきとよ

ハそこのけはをぬかせんころ

そこのけはをぬかせんころ

おはるうき家のあけちしきよき

頼三樹三郎醇

我つとも若く代りもまろゝの

あつとも若く代りもまろゝの

かゝるも若く代りもまろゝの

かゝるも若く代りもまろゝの

辞世

排雲手欲掃天螢 失脚墮来江戸城

井底癡蛙過憂患 天邊大月欠高明

身從湯鑊家無信 夢渡鯨濤劍有聲

他年風雨苔石面 誰題日本古狂生

佐野竹之助光明

あつちの田の花をうらむハとくまるとも
たふたふちむつふふとくまるとも
あつちの田の花をうらむハとくまるとも
あつちの田の花をうらむハとくまるとも

有村治左衛門兼清

あつちの田の花をうらむハとくまるとも
あつちの田の花をうらむハとくまるとも

齊藤監物一徳

胡馬南来久不歸 山河踐破一身危
功名認我等雲過 歲月驚人似夢飛
每事恐貽千載笑 此身本與衆人違
只今唯有君親在 血淚紛々黻容衣

あつちの田の花をうらむハとくまるとも

あつちの田の花をうらむハとくまるとも

あつちの田の花をうらむハとくまるとも

辞世

あつちの田の花をうらむハとくまるとも
あつちの田の花をうらむハとくまるとも

心より我が情を告げ我中を
あはれささく乃始のち
四天五地ふむる血すの移世
とてあはれさすも世男のまをら
庵にまはる里のあはれさす

贈從二位大納言源齊卿

弘道館中千樹梅 清香馥郁十分開
好文豈何無威武 雪裡占春天下魁
款あはれさすも世男のまをら
あはれさすも世男のまをら

白髮蒼顏万死余 平生豪氣未全除
寶刀難染洋夷血 都向青山舊草廬
うらやまはらへらへらへらへら
あはれさすも世男のまをら

鬼嶋 強助

あはれさすも世男のまをら
あはれさすも世男のまをら
あはれさすも世男のまをら
あはれさすも世男のまをら
あはれさすも世男のまをら

さしづめく 隆の 初らしき

金子孫治郎敬孝

君の徳を 世に傳へて 後世に 遺徳を 留め

二葉の 跡も 残さず 消えぬ

又 丈夫な 心も あり 徳も あり

やまふ 心も あり 徳も あり

いつし 心も あり 徳も あり

世の 徳も あり 徳も あり

杉山彌一郎

君の徳を 世に傳へて 後世に 遺徳を 留め

森 五六郎

君の徳を 世に傳へて 後世に 遺徳を 留め

ちまたに 徳も あり 徳も あり

蓮田市五郎正實

皇道久 表類 誰能 載至尊 姦曲重 慘毒

醜虜勢 吐吞 不有 迅雷断 争支狂 浪翻

嗟予 深感激 先士報 天恩

しやうひの 徳も あり 徳も あり

くろくろ 徳も あり 徳も あり

黒澤忠三郎

相見文之助則光

名不た〜 志矢のあつを〜
我言〜 結と〜

大橋順藏

刑屍累々鬼花青 枕頭時覺北風腥
婆心憂世夜難睡 起自窓端見大星

有馬新七

梓ゆ〜 志矢のあつを〜
あつ結の〜

醜の〜 志矢のあつを〜

森山新五左衛門

〜 志矢のあつを〜
大和と山 松〜

西田直五郎

大君の所代か〜
秋の〜

松本謙三郎

荒卷年三郎真刀

あつちもふそこの山鳥とくさきとくさ
あつちの駒をくさめかひはく

澁谷伊与作寛行

あつちさなやほきあつちふ久内山
月のきつりくさあつちあつちん

岡見由治郎恒茂

あつちまふそこの山鳥とくさきとくさ
あつちあつちあつちあつちあつち

尾崎濤五郎孝基

あつちまふそこの山鳥とくさきとくさ
あつちあつちあつちあつちあつち

吉田重藏良秀

あつちまふそこの山鳥とくさきとくさ
あつちあつちあつちあつちあつち

保母 建景光

あつちまふそこの山鳥とくさきとくさ
あつちあつちあつちあつちあつち

水郡善之助長雄

あつちまふそこの山鳥とくさきとくさ
あつちあつちあつちあつちあつち

何を擣りてみりさうり

石川 肇貞元

大皇師こころや千代にまゝと

あつめいめらちたてし

乾十郎 從龍

いふの繩ハ中を小ほるも

あつめらちたてし

多田 弥太郎

謬捕公湊川廟

是天何意殺忠臣 文見殘碑兵庫濱

報國忠魂今耐用 田天氣魄始為伸

千帆東往窺沿海 萬國要求指此津

開港期日漸々逼 人謀只恃有神嘆

美玉 三平

會乃志るこゝ遠招小樹の芽吐

うささねの代とあふ千ねあふん

あつめらちたてし

うささねの代とあふ千ねあふん

松田 重助 範義

美玉 三平 美玉 三平

とくも死す 汝々 命ハおとすべしと
かくてもあまもえまの けしき
あのくえんもく せき ちと ちあひ
子 むけあひさし けあひ せし 一と

末嶋又兵衛正久

甲子のえ朝ふ

きさきとくもえん せん せん せん せん

入江九市弘毅

あひさのあも今もむしとてしとせん
あひさのあも今もむしとてしとせん

寺嶋忠三郎

朝はあまもく せん せん せん せん
大内のくもせん せん せん せん
せん せん せん せん

中村恒治郎無可

かひさより せん せん せん せん

あひさのあも今もむしとてしとせん

真木和泉守保臣

獨抱人之不識愛 窮蔭沉黙思愆々
精神寫出千言策 頼有皇天時可酬

おん世あしきもさくらふお世もくき
しきくそ梅のあけいありたる
るあめ新能志のあふさきうりま
あ乃こくあをあふらんをまお
よしとらひあしとらんと誌誌に
るくくくあめあ君のたぐひあふ
いとさひのあとみくきき
よしとらひあしとらんと誌誌に
くくくくあめあ君のたぐひあふ
いとさひのあとみくきき
よしとらひあしとらんと誌誌に
くくくくあめあ君のたぐひあふ
いとさひのあとみくきき

廣田誠一執中

おん世あしきもさくらふお世もくき
しきくそ梅のあけいありたる
るあめ新能志のあふさきうりま
あ乃こくあをあふらんをまお
よしとらひあしとらんと誌誌に
るくくくあめあ君のたぐひあふ
いとさひのあとみくきき
よしとらひあしとらんと誌誌に
くくくくあめあ君のたぐひあふ
いとさひのあとみくきき

松浦八郎寛敏

長尾郁三郎景雄

あはれきしとくくおくる 月日

河村縣登守秀就

辞世

季興

あはれきしとくくおくる 月日

あはれきしとくくおくる 月日

岡部忠藏

あはれきしとくくおくる 月日

あはれきしとくくおくる 月日

毛利登人

あはれきしとくくおくる 月日

あはれきしとくくおくる 月日

あはれきしとくくおくる 月日

あはれきしとくくおくる 月日

渡辺内藏太暢

人間行路盡風波 一死報君豈有他

奸吏不知賈生志 流涕奈比國家何

竹内庄兵衛勝愛

あはれきしとくくおくる 月日

あはれきしとくくおくる 月日

佐久間左兵衛義濟

今ハちやまの葉もよおのこふと
清ゆく月と花を飾りくさうわ

猶崎弥八郎清義

日出之邦事義方 不飢不凍送星霜
今宵一死酬明聖 二十八年更覺長

大和國之助直利

ふのちをえん世の為何うぞか
君ふささくさく天和 ころを

実戸丸馬助真徴

辞世

とをあらぬ人のみわらとをさし
空根ふまゆふ花とんころ那
朝夕ふまかきしものと 別うや
うたせのちかたんころころん

前田孫左衛門利涉

臨刑賦似後之君子

一死如飴豈敢辞 居官半生值晴時
酬君心事何順辨 只有青天白日知

小室治作正徳

あまのこころめづる小室ハスミヤカ

大内 山一 月ハ寸先 ヲ
おのそふ生き一 甲能るもあけの
月ふ せりきり かくわく せり

辞世

小川 幸吉

一片和魂終未申 二年餘再為囚人
君恩不報死何朽 踰泣皇天返海邊
あし 申せ 系秋は 海の 武士 志
死 志 持し 志 志 志 志

八木橋誠之進

皇國の所為を せり せり せり せり
し せり せり せり せり せり せり

沼田 亮造

か せり せり せり せり せり せり
救の せり せり せり せり せり

伊藤 榮太郎 藤原 重房

おの せり せり せり せり せり せり
せり せり せり せり せり せり

加藤 司書

おの せり せり せり せり せり せり

狂りやまゝさる武士ののち

江上栄之進

鬼神もあらざるとおぼくものまゝ乃
いのちよかくとほく守むと

野村望東尼

後身もあらざるとおぼくものまゝ乃
神のこゝろのまゝとておぼくもの
救あゝぬけ方ハ昔ふもれと
大和さるりの種ハ朽せし
筑前山はくしのほふさるりの

つゝとておぼくものまゝとておぼくもの
おぼくものまゝとておぼくものまゝと
たのまゆひとておぼくものまゝと
大和さるりの種ハ朽せし
筑前山はくしのほふさるりの
おぼくものまゝとておぼくものまゝと
おぼくものまゝとておぼくものまゝと

平家國良ぬけ方未だおぼくものまゝと
おぼくものまゝとておぼくものまゝと
築前山はくしのほふさるりの

ちりぬるを　　しるしのまゝにせし
おのゝ　　梅もさく　　山もさく　　うら

清川八郎正明

壬戌夏謁亡友某之墓

嗟乎義友果瞑否　　回天好機事已殿
遺恨空成浚死人　　徒然乾坤訢微旨
天地不言地也默　　中有雲霧遮彼此
頃巷清風奮手燼　　請君勿悶暫時裡

殉難前草畢